



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 43

2022. 2.15

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：文科大臣表彰／信州SDGsアワード／石川県ESD交流会／コンソーシアム発表&交流会

1月5日 文部科学大臣優秀教職員表彰に山ノ内町南小学校の菅原勇介先生が選ばれました

優れた教職員を表彰する上記表彰にユネスコスクールの山ノ内町立南小学校の菅原勇介先生が選ばれました。全国では812名、長野県では17名でした。表彰の分野は9あり、その7ユネスコ活動で選ばれたのは長野県では菅原さんのみです。校内でのESD研究会を進めるなど積極的なユネスコスクール活動が評価されての表彰だと思います。菅原先生、おめでとうございます。

1月17日 信州SDGsアワードに飯田市上村小／山ノ内南小／中野西高が受賞しました

SDGsの取組を推進し、県内での機運を高めるために今年度長野県が創設した上記アワードに、8小中高校と7企業団体が受賞されました。ユネスコスクールとしては飯田市立上村小学校、山ノ内町立南小学校、中野西高校の3校が受賞しました。SDGsを推進する拠点校としてのユネスコスクールのESD活動が評価されたものでしょう。おめでとうございます。今後とも県内ユネスコスクールの活動が評価され、信州SDGsアワード受賞校が増えることが期待できます。

1月22日 石川県SDGs/ESD児童生徒学習活動交流会に山ノ内町立東小学校がゲスト校発表しました

ゲスト発表として山ノ内町立東小学校の中山先生が6年生の活動を報告しました。山ノ内町は野猿公苑が観光地になっているが、街中にも出没しており大きな問題となっている。野生動物のサルと人の共存をテーマにサルがどこにいるかやどんな遭遇したかなどのサルマップを調査し、観光客や役場から対策を聞いたりして、どうしたら良いかを皆で考えている、と発表があった。日常目にする課題に熱心に取り組む様子がよくわかった。(渡辺隆一)

2月5日 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されました

オンライン開催の今回は、県内18校、県外5校から29の発表申込があり、午前午後各3会場とし小中高別に十分な交流の時間を設けることとしました。Zoomでの発表、交流にあわせてライブでの配信もおこなわれ、信州大学教育学部の学生など200名上の視聴者に参加いただき、多数の感想、質問をいただくことができました。また、ホームページ上に別途3校のビデオ・ポスター発表も掲載されました。

小学校の発表(各会場の発表順)

●群馬県みなかみ町立新治小学校 「調べよう 新治の自然」をテーマに日本を代表する豊かな生態系が息づく「赤谷の森」の実態を知り、郷土の自然の素晴らしさを感じ取るとともに、新治の自然を体験しました。その体験をもとに、どのように自然と関わっていくか、自然を維持発展させるためにはどうすべきかなど、個々の課題について調べて、まとめたことを互いに交流しあいながら、自分たちの考えを広げていきました。

赤谷の森とは

面積：10000ha

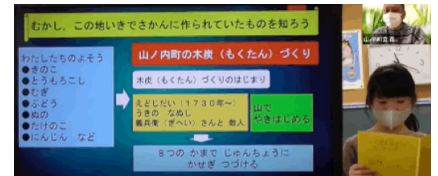
自然林：全体の70%

森林の種類：1. 原始的自然林

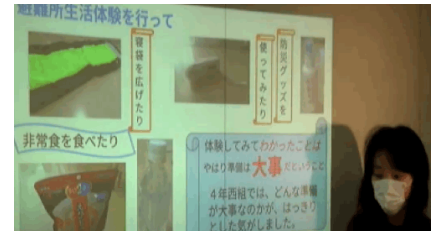
2. 二次林

3. 人工林

●**山ノ内町立西小学校** 2年生が「炭焼きをしよう」をテーマに、SDGsの目標である「陸の豊かさを守ろう」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関連した森林資源の持続可能な開発を目指して活動をおこなった。かつて地域で盛んであった炭焼きを学び、森林の維持、利活用のために、校区内の森林の間伐材を使って炭焼きを行い、みんなで協力して炭を作ったり、使ったりする活動を通して、間伐材を利用して作る炭焼きの良さを実感しました。



●**信州大学教育学部附属松本小学校** 4年生が「より快適に避難所生活を過ごすための防災グッズを作ろう」をテーマに学習し、「校内にある防災倉庫の中には一人一食分の食料しかない」という事実と出会い、足りない分を自分たちで用意することにしました。その際、必要な物を買って済ませるのではなく、自分たちで作って確かめて、改良していく歩みを繰り返し行ってきました。より快適な避難所生活を願いながら挑み続けたプロセスとともに、こだわりの防災グッズを紹介しました。



●**山ノ内町立東小学校** 4年1組は「ぼくたちわたしたちの山ノ内の宝コカリナ」をテーマに、志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習した。「いろいろな曲を吹けるようになりたい」という願いを持って、コカリナのために作られた曲である「森の朝」や音楽会で歌う「ふるさと」などの曲を練習しました。9月、製作の工房を見学したことで、「コカリナがある山ノ内町ってすごい」という気づきがありました。町役場の国際交流員のレーガンさんとの交流も重ね、山ノ内町の魅力を世界に伝える活動にとり組んでいます。



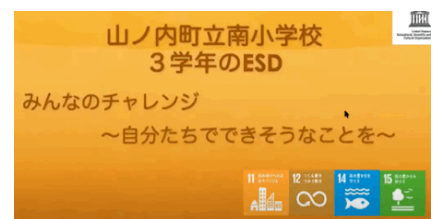
●**飯田市立上村小学校** 「上村のためにできることを考え、行動しよう」をテーマに、様々な自然体験活動を通して改めて上村の良さに触れました。上村の人口減少等に課題をもち、自分たちにどんなことができるか話し合い、計画を立てました。小学校で育てた椎茸や下栗芋の販売、観光客の方への歌の発表、上村地区のごみ拾い、上村の良い所を飯田市街地で宣伝するなど、持続可能な上村のためにどんなことができるか話し合い、活動してきました。上村を大切にしようとする心情が大きく育まれた発表でした。



●**信州大学教育学部附属長野小学校** 「未来につながる森林プロジェクト」をテーマに、森林について学びました。始めは木を伐採することが自然破壊につながる行為だと思っていましたが、林業に携わる様々な方との出会いの中で、木を適切に伐ることは環境を守ることに繋がっていると学びました。今年は、森林税を活用し、県産材を使ったベンチ作りに取り組み、地域の方に使っていただくことで私たちの想いを届けようと活動しています。



●**山ノ内町立南小学校** 3年生が「自分たちのできることをしよう ～ゴミから深まる学び～」をテーマに、去年はゴミに目を向け新聞紙エコバックを作りました。5月に児童会活動でクリーン作戦(ゴミ拾い登校)を行うと、通学路には大量にゴミがあった。何とかしたいという思いから月曜日をゴミ拾い登校日と決め活動をしました。しかし拾っても拾ってもゴミがなくなる。そこで地域にポスターを掲示しました。他に給食の牛乳瓶の蓋を用いて紙づくりをしたり、ペットボトルキャップでブローチ作りなどゴミのアート化にチャレンジしました。



●**山ノ内町立南小学校** 6年生は、去年、学校近くの田んぼでとれた米が食味コンクールで金賞を受賞した経験から、「水」に目を向け「守りつなぎたい志賀高原の「きれいな水」」をテーマにしました。「きれいな水」



とは何かを疑問に学習を始め、信大COIを訪問したり、学校周辺で水質検査をしたり、志賀高原の源泉付近で水質調査をしたりして、疑問を解決していくうちに、「水を守りつなぎたい」という意欲を高めていきました。そのために何ができるか考え、水の学習に取り組んでいる奈良県川上村や飯田市の川の施設、行政などとも交流して考えを深めていきました。

●**飯田市立和田小学校** 3・4年生が「お茶の収穫から販売へ」をテーマに活動しました。持続可能な和田小学校を目指すために、学校で南信濃特産のお茶を栽培し、お茶の販売を行いました。5月には、児童だけではなく保育園や保護者、地域の皆さんと一緒にお茶摘みを行いました。製茶されたお茶を地域の「わだっ子応援隊」と一緒に袋詰めし、販売へとつなげました。お客さんに喜んで買ってもらうための方法を考えて練習し、販売当日を迎え、無事完売することができました。



●**鹿児島県屋久島町立八幡小学校** 5年生が「創ろう、魅力ある屋久島」をテーマに発表しました。昔ながらの米作りを実践した体験を通して、屋久島の文化や産業について考えてきました。昔ながらの米作りの利点や課題を整理していく中で、屋久島の環境を守っていくためには、昔ながらの方法も続けていくべきだと考えるようになりました。SDGsと関連させて学習のまとめを発表しました。



●**高山村立高山小学校** 長野県北部にある高山村は地域と学校が一体となって、「高山小学校 ひとりだちともそだち」を目標に、未来ある子どもたちを育てています。地域と共に歩む学校の地域学習である「親子で学べるわくわく村」、6年生を中心に活動する児童会活動、4年生の総合的な学習の時間「ごみへらし大作戦」の取り組みを紹介しました。今日発表者をつとめる4年生の子どもたちは、社会科のごみの学習で



見学した村の施設「地力増進センター」の仕組みをきっかけに、自分たちのできるごみの減量方法を考えました。ごみ減量が地球温暖化を防ぐことにつながることを視野に入れながら、自分たちができることで小さな一歩を踏み出そうとしています。

●**茅野市立永明小学校** 「みんなでやろうリサイクル」をテーマに発表しました。学習し終わったプリント類や給食で毎日出る牛乳びんのふたを何気なく可燃物にしていた子どもたち。ごみを燃やしたらどうなるのかや、燃やした後はどうなるのかを学び、「できるだけ燃やさなくてすむ方法でゴミを片付けたい」という願いをもちました。まず学級でゴミを分別し、リサイクルすることに取り組み、その活動を全校にすすめて、ゴミを分別してリサイクルを行い、可燃ゴミを減らす活動に進めています。



●**鹿児島県屋久島町立八幡小学校** 3・4年生は「発見、発信、屋久島の自然」をテーマに、「屋久島のすばらしい自然をどのように守っていこうかな」と考え、レンジャー体験をしたり、調べ学習を行ってきました。海でおきている海洋ゴミの問題や、山でおきているヤクシカが増えすぎている問題を知り、ゴミ拾いを呼びかけたり、給食に鹿肉を出してもらうように頼んだり、自分たちなりの解決の取組を考え、活動しました。



●**長野市立信里小学校** リンゴ栽培を通して、信里のリンゴ栽培の未来について考えてきました。リンゴづくりの名人に教えていただきながら、花摘み、摘果、葉摘みの体験をし、収穫したリンゴを校内で販売しました。実際に食べておいしいと実感し、選果場のセンサーにかけても高い評価が得られました。信里でこんなにおいしいリンゴが栽培できるのに、高齢化と若年層が農業をしないことなどで、リンゴ畑が減少している現実を受け止め、今、自分たちができることは何だろうと考え、活動しています。



中学校の発表

●**飯田市立遠山中学校** “遠山郷を守ろうプロジェクト”は生徒が「出来ることをして地域に貢献しよう」という思いから始まり、生徒会が中心に企画する今年で7年目の活動で、学校周辺のゴミ拾いや公共施設の清掃を行いました。関連活動として“遠山三校絆プロジェクト”や“郷土の舞”の活動があります。地域に住む小中学生が一堂に会してSDGsについて学んだり、重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞を学び、地域の方に披露しています。

●**山ノ内町立山ノ内中学校** 2年A班は「ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる」をテーマに、草津研修旅行を通して、温泉という共通点と相違点を考えながら、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめました。山ノ内は見所が広域であるなど課題もあるが良い点も多いのでまずは町民が地元の良さを知ることが大事だと思いました。また、温泉を農業ハウスや道路の融雪に活用するなど多彩な利用が考えられのではないだろうか、など多くの提案をおこなった。

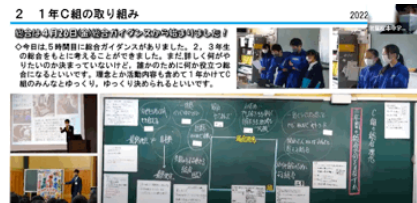
●**宮崎県綾町立綾中学校** SDGs達成に向けての生徒会活動報告を1年生が報告しました。本来は自然への探究をテーマにフィールドワークを中心とした学習を行うが、コロナ感染症拡大のために、今年はエコパークセンターの協力による調べ学習を中心としました。リモートセンシングを利用して、綾ユネスコエコパークイオン森における炭素蓄積量を算定しました。新聞紙でエコバッグを作成し、地元の有機農産物販売所に寄贈しました。

●**山ノ内町立山ノ内中学校** 2年B班は「ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる」をテーマに、草津研修旅行を通して、温泉町としての比較をして学び考えました。草津はコンパクトなど山ノ内町より観光しやすい面があるが、山ノ内の良さであるサルやリンゴの活用、伝統行事など特徴を活かしたスタンプラリーや体験施設の充実などの提案をおこないました。

●**高山村立高山中学校** 「地産地消の効果」をテーマに、学校給食について地域食材の情報を集めました。用いられた地域食材について、日本国内の産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べ、CO2排出量や輸送距離などから、地産地消の有効性を計算し、検証しました。栄養教諭からのアドバイスを受けて、今年度のデータでさらに有効性を検証しました。

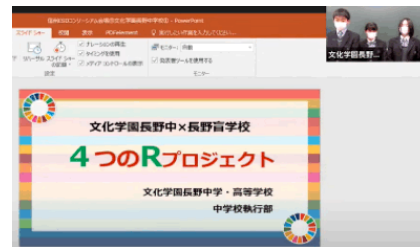
●**信州大学教育学部附属松本中学校** 1年生は「廃材でReCycle!笑顔がつながる持続可能な社会づくり」をテーマに、3年間の総合的な学習で大切にしたい理念「協力」「笑顔」「繋」を決め、それに基づいて各グループで活動を行っています。古紙を再利用して紙を作ったり、廃材を用いてベンチを作ったり、古着を裂き織り直すことで新たな布を作ったりしながら、リサイクルや再利用の魅力に気づき始めています。現在、9つあるグループの活動の魅力を互いに伝え合い、感じ合ったりしながら来年度の見通しを立てています。

●**岐阜県高山市立荘川中学校** 総合学習(郷土教育)でのESD/SDGsの取り組みは、コロナ禍のなかで思うように行えないこともありましたが、演劇・獅子舞・笠踊り・絵本作り・梅花藻の育成などに意欲的に取り組み、のびのびと行うことができました。ESD/SDGsを意識して自分の活動と結び付けて考えるようになったことも大きな一歩でした。荘川ならではの、

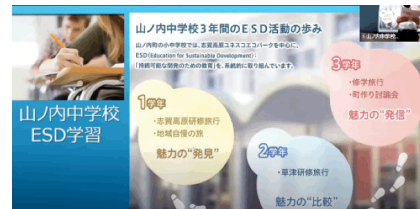


荘川だからできることに誇りを持って活動しました。

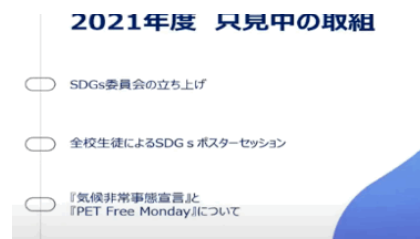
●文化学園長野中学校 「4つのR」プロジェクトとして、環境4つのR (Reduce, Recycle, Reuse, Refuse)に基づいて、プラスチックゴミ削減案を提案し、川の源流地域から海をきれいにする、生徒が主体的に活動を行う、生徒会執行部が全校を束ねてPDCAを回す、などを実行しました。



●山ノ内町立山ノ内中学校 1年A班は、ユネスコスエコパークの志賀高原への研修旅行を通して自然の良さを知り、山ノ内町の豊富な果物や素晴らしい自然のフォトコンテストなど、それらを広めることを考えました。また、ABMORIという自然との共生をめざしておこなった植林活動は、参加者に大きな感動をあたえており、コカリナとも関連あることを知りました。



●福島県只見町立只見中学校 「地域と共に学ぶ只見中学校」をテーマに、本校のESDは地域の方々との協力のもと活動を行っています。今回は、①学校の組織としてSDGs委員会の立ち上げ、②全校生徒によるSDGsに関するポスターセッション、③ペットボトルの利用抑制活動、④自然素材の活用について、の4つのいずれも地域と協働で行っている活動を発表しました。この内容について世界への発信を目指して、サマリーを英語で発表しました。



●文化学園長野中学校 English Camp「ブータンの学校と交流しよう～ブータンを学び、日本を知ろう」。例年、合宿形式で行われているEnglish Campおよびカナダへの語学研修が、本年度も開催不可能となり、その代替として、異文化理解学習を企画しました。オンラインでのブータンの子ども達との文化交流を軸に、伝えようとする気持ちを持つ事によって言葉の力に気付き、英語学習への意欲を高め、主体的に学ぼうとする態度が育成されました。同年代による異文化コミュニケーションから、文化の多様性と相互理解を経験することで、自国文化への興味や誇り、アイデンティティを実感することができました。



●山ノ内町立山ノ内中学校 1年生B班は、ユネスコスクールとして山ノ内町のESDを志賀高原研修旅行を通して学び考えました。外国からの来客を増やすために旅館などにアンケートをおこない、言語や食事、交通など多くの課題があることを知り、その改善策を考えました。町中に英語表示を、Wi-Fiの設置、交通面の改善などの具体的な提案をしました。観光も持続可能な社会のために大いに役立つこと知りました。

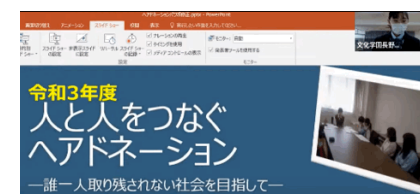


高等学校の発表

●長野県佐久平総合技術高等学校 「酒粕をアップサイクル ～カスを価値に 未来へ佐久咲け!～」をテーマに活動しました。長野県佐久市は、市内だけで11蔵元もあるほど日本酒造りが盛んです。本校では、令和元年度より地元酒造会社「戸塚酒造」と連携して日本酒製造を行っているが、日本酒製造の副産物として得られる「酒粕」の需要が低迷していることを知りました。そこで、酒粕の需要拡大に向けた取り組みを行い、食品ロス削減や地域活性化につなげたいと考え活動しています。



●文化学園長野高等学校 誰一人取り残さない社会を目指して、2018年より『人と人をつなぐ ヘアドネーション』を行っています。がん治療の副作用、脱毛症などの病気、けがなどで髪の毛を失い、日常生活



に悩みを抱える子どもたちを支えたいと願い、自分の髪の毛を伸ばして、切ってNPO法人などに送り、医療用ウィッグを作る材料にしてもらうヘアドネーション(髪の毛の寄付)活動です。本年も、本校生徒会役員ら有志がヘアドネーション活動や、そのような仕組みがあることを広くPRする活動に取り組んでいます。

●長野県木曾青峰高等学校 地域で遊休化している農地を整備し、地域の子ども達に自然豊かな里山を体験してもらえる機会をつくることを目標に「青峰里山プロジェクト」に取り組みました。地域の方々に指導いただきながら、草刈りや道路、水路の整備、野草観察、水田ビオトープづくりに取り組み、沢山の生き物が訪れる「青峰里山パーク」が完成しました。11月には、地元保育園や小学校の子ども達とともに、里山の自然にふれあう交流企画を実現することができました。



その他ESD実践紹介 (信州ESDコンソーシアムのホームページからご覧いただけます)

●根羽村立義務教育学校根羽学園 中学2年生7名が「根羽杉のブランド化」をテーマに、根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動をおこないました。木材に付加価値を付け産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちができる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるように活動しています。



●信州大学教育学部附属特別支援学校 1.全校では、アルミ缶の回収をおこなっています。皆で協力する大切さや自分たちでできることの意義を知る貴重な機会となりました。2.小学部では、附属長野小とのESD交流で新たな学びがうまれています。3.中学部では、地域や学校の花壇整備によって明るい雰囲気を作り出しています。4.高等部では、福祉事業所・企業での職場実習で社会とのつながりを作ろうとしており確かな成長がみられます。附属特別支援学校はこれからもSDGsに主体的に取り組んでいきます。



●信州大学教育学部附属幼稚園 「自然環境を大切に作る心を育む」をテーマに活動しています。1.資源回収として、家庭からのトイレトーパーの芯や牛乳パック、空き箱などを回収し、遊びの素材として再利用しています。2.こうした素材を使って遊び道具を作ることで貴重な経験を重ね、自宅でも再生資源の有効利用により創造力も育まれています。3.園や家庭での遊びで使わなくなったものは解体して元の資源として回収箱に戻され、再生資源として活用されています。また、市の環境課の方からリサイクルの話聞き、環境や資源を大切にする気持ちを育てています。



コロナ下でもより良い教育を願う関係者の努力により、確かな目的・目標をもつユネスコスクールの歩みは着実に進展していることが今回の発表でも感じられました。6会場ではそれぞれの発表後に外部講師による講評があり、いずれも年々活動が向上しているとの高い評価をいただきました。ありがとうございました。また、オンラインによる全国との交流は、ライブ視聴者の長野県民に屋久島などへ行ってみたいなどの魅力や新たな感動を呼び起こしました。英語での発表もあり、今後の国際交流にもつながる新たな展開も期待される大会でした。今大会はユネスコエコパークの活動支援をおこなってられるイオン環境財団のご援助をいただき開催することができました、ここに感謝申し上げます。

